

近畿経済産業局管内経済の動向
(ヒアリング企業数 277社)

1. 全体の動向

近畿地域の経済は、小売業の一部に弱い動きもあるが、輸出が好調に推移、設備投資は増加、個人消費も緩やかに増加し、また、生産も緩やかに上昇するなど、全体として引き続き改善している。

業況は、小売業の一部に弱い動きもあるが、引き続き改善している。

生産は、緩やかに上昇している。

設備投資は、増加している。

雇用情勢は、一部で採用が困難となるなど、引き続き改善している。

個人消費は、緩やかに増加している。

観光は、外国人観光客が増えており、総じて好調である。

地域別には、福井・滋賀・大阪地域は、電子部品・デバイス、電気機器、精密機器、食料品、情報通信機器などを中心に改善している。京都・兵庫地域は、化学、電子部品・デバイス、鉄鋼などを中心に改善しているものの、情報通信機器、プラスチック製品に弱い動きがあり、また、有効求人倍率も近畿平均を下回っている。一方、奈良・和歌山地域は、鉄鋼が改善しているが、化学、食料品、繊維など総じて改善に遅れがみられる。

先行きは、輸出の好調に加え、設備投資や個人消費の増加などから、緩やかに改善することが見込まれるが、原油価格・原材料価格の高騰、公共事業費の削減、海外からの安価な製品の流入などの懸念材料に加え、今後の金利の動向によっては、特に中小企業へのダメージが大きい。

2. 個別の動向

業況：小売業の一部に弱い動きもあるが、引き続き改善

製造業は、引き続き改善している。

情報通信機器は、薄型テレビが激しい競争により価格が下落しているが、引き続き大型・高品質機種への需要シフトや内外の需要の拡大に加えてサッカーワールドカップ特需などにより堅調に推移しており、携帯電話が高機能機種を中心に好調であるなど、全体として堅調である。

電子部品・デバイスは、品質面、価格面での競争がより一層激化しており、依然として厳しい状況が続いているが、薄型テレビ向け、パソコン向け、携帯電話向け、ゲーム機向けなどが需要好調であり、セラミックコンデンサーなど一部に品不足も見られるなど、全体として堅調である。先行きについては、ワールドカップ特需の反動による在庫調整が懸念されている。

電気機器は、エアコンが気温が低く推移したことにより出足が鈍ったが、白物家電全般としては高機能・高付加価値機種が引き続き好調であり、総じて堅調である。

鉄鋼、一般機械は、自動車向けを中心とする旺盛な需要を背景に一部フル生産が続くなど引き続き好調である。

化学は、合成樹脂、塗料など自動車向けの国内需要及びアジア向けの輸出が好調で

あるが、ナフサなど原料価格の上昇の影響がみられ全体として弱含みである。

繊維は、低調に推移するなか、緩やかながら改善している。産業用では自動車関連、電子材料が順調に推移している。衣料用ではテキスタイルやアパレルなど一部にクールビズ関連の動きもみられたが、繊維産地にはほとんど波及せず、全体として低調に推移している。

非製造業は、緩やかに改善している。小売業は、自動車販売等が弱い動きになっているが、薄型テレビ等のデジタルA V機器、高機能白物家電や宝石・貴金属等の高額品が好調であり、おおむね横ばいとなっている。一方、サービス業は事業者向けサービスに加え、個人向けサービスも旅行、フィットネス等が好調である。

業種ごと、企業ごと、事業分野ごとの好・不調の差は引き続き残っている。

中小企業においては、経常利益が改善し、雇用の不足感も強まるなど、全体としては引き続き緩やかに改善しているが、今後、金融機関の利上げの影響が懸念される。

生 産：緩やかに上昇

生産は、増加基調の設備投資や好調な輸出を背景に、緩やかに上昇している。

- ・ 繊維は、産業用では自動車関連、電子材料が順調に推移しており、また、衣料用ではクールビズ関連の動きも一部にあったが、全体として低調に推移している。
- ・ 化学は、界面活性剤が産業向けを中心に底堅く推移しているほか、合成樹脂が自動車向けの国内需要及びアジア向けの輸出を中心に引き続き好調に推移し、電子材料はPDP用光学フィルターなどデジタル機器向けが好調である。
- ・ 鉄鋼は、汎用品は低調であるが、自動車向け、造船向け、産業機械向け等の高級品が好調であり、シームレス鋼管もフル生産の状態であるなど、引き続き堅調に推移している。
- ・ 一般機械は、工作機械が国内自動車関連向け、北米向け等が引き続き好調であり、フル生産の状態が続いており、半導体製造装置は好調に転じているなど全体として引き続き好調に推移している。
- ・ 電気機器は、白物家電では高機能・高付加価値機種が引き続き好調であり、全体として堅調である。
- ・ 情報通信機器は、好調である。ワールドカップ特需も加わって、薄型テレビが需要の拡大により大幅に増加しており、DVDにも高性能機種に動きがみられる。また、携帯電話はワンセグなど高機能機種への買い替え需要もあり堅調であるほか、デジタルカメラが一眼レフなどの高機能機種を中心に復調してきており、パソコンもノート型を中心に国内向け輸出向けとも好調である。
- ・ 電子部品・デバイスは、薄型TVを中心とするデジタルA V機器向け、携帯電話向け、パソコン向けや自動車関連など内外の需要拡大を背景に、一部でフル生産に転じているなど、総じて好調である。
- ・ 輸送用機器は、自動車関連が内外の旺盛な需要に支えられ好調に推移しており、造船も世界的に旺盛な需要を背景に、数年先まで受注が確保できているなど引き続き高水準を維持している。

設備投資：引き続き積極的な姿勢の企業が多く、増加

設備投資は、引き続き積極的な姿勢の企業が多く、特に高炉や薄型パネル、発電所では大型の投資もみられる。

製造業では、高炉の改修をはじめ、プラズマパネルや液晶用・プラズマ用ガラスの増産対応投資など、積極的な能力増強投資の動きが引き続き拡大している。

また、液晶パネル、液晶用偏光フィルムなどで域外への能力増強投資も続いている。

非製造業においても、火力発電所の建設・改修をはじめ、百貨店の建て替えや増床、大型複合商業施設の新規立地も引き続き活発である。

先行については、鉄鋼や電子部品・デバイスなどで引き続き増加が見込まれるが、今後、金利の動向により設備投資計画に与える影響が懸念される。

雇用情勢：一部で採用が困難となるなど、引き続き改善

製造業では、技術系に加えて営業など人材の不足感がより一層強まっており、団塊世代の大量定年退職への対応も含め、定年退職者の再雇用、定年の延長を促進する一方で、新卒採用、即戦力としての中途採用、人材派遣など多様な方法による人材確保を積極化する動きがさらに広がっている。特に、一般機械、電子部品・デバイスなど一部で希望する人材の確保がより困難となっている。

非製造業では、小売・卸売業などに人材の不足感が強まっており、一部で正社員の採用を活発化する動きがみられる一方で、派遣社員、パート・アルバイトなどの非正社員の採用をさらに拡大する動きが強まっている。特に小売業の一部では、パートなどの採用が困難となっている。

個人消費：緩やかに増加

雇用情勢や所得環境が改善するなかで、ワールドカップの特需もあり薄型テレビ等のデジタルAV機器が大幅に増加し、ドラム式洗濯乾燥機等の高機能白物家電のほか、輸入時計、宝石・貴金属等の高額品が好調に推移するなど、全体としては緩やかに増加している。

先行きについては、株安による逆資産効果の影響が懸念されるが、企業業績の回復による夏のボーナス増等の所得環境の改善、消費マインドの盛り上がりなどにより、引き続き緩やかな増加が見込まれる。

薄型テレビや輸入時計、宝石・貴金属等の高額品、健康・美容関連の商品やサービス、旅行など、自ら価値を認めるモノ・サービスに対する消費に広がりがみられる。

- ・百貨店は、主力の衣料品が、例年より気温が低く推移したことにより春・夏物の売れ行きが低調であったものの、クールビズ対応の清涼スーツ・ジャケット、ワイシャツが好調であり、また身の回り品、輸入時計、宝石・貴金属等の高額品が引き続き好調であるなど、消費マインドの盛り上がりが見られ、総じて横ばいとなっている。
- ・スーパーは、生鮮品が、天候不順等による青果等の相場高のため持ち直しているが、加工食品の低価格競争による単価ダウンや、衣料品の不調により、全体としてはやや弱めに推移している。

- ・ コンビニエンスストアは、弁当やデザートの新商品等の一部商品に好調な動きがみられたが、低温や雨天などの天候不順により飲料やアイスクリームなどの季節商品が不調であり、やや弱い動きとなっている。
- ・ 家電販売は、サッカーワールドカップの特需もあり薄型テレビ、DVDレコーダ等のデジタルAV機器が好調であり、またドラム式洗濯乾燥機をはじめとして炊飯器、電子レンジ等の高機能白物家電が好調に推移するなど、全般的に好調に推移している。
- ・ 自動車販売は、ガソリン価格の高騰による消費者の燃費重視の傾向もあって、軽乗用車は好調に推移しているが、普通乗用車が不振であるなか、小型乗用車は新型車の投入の狭間となり伸び悩んでおり、全体としては弱い動きとなっている。
- ・ 旅行は、全体として堅調に推移している。海外旅行は、近場のアジア地域の人気が高く、オセアニア、ヨーロッパも好調であるなど、総じて堅調に推移している。国内旅行も、北海道、九州、沖縄といった遠距離方面の好調により、堅調である。
- ・ サービス分野では、大型テーマパークの入場者数は、期間限定のショー、パレード等の充実により、また家族連れ、女性をターゲットにした展開の成果により女性客が増加し、関西圏を中心として来場者が増加したため、全体として好調に推移している。

観光：外国人観光客も増えており、総じて好調

近畿地域への入域動向は、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の効果もあって外国人観光客が増えており、総じて好調に推移している。

主な観光地の動向をみると、京都地区は、寒さのぶり返しもあり、桜の開花期間が長かったこともあり、花見客は好調に推移し、5月の宿泊客も増加しており好調。

神戸地区は、去年は愛・地球博の影響で減少したが、一昨年並に戻っており、神戸空港のターミナルビルの見学者も多く好調。

奈良地区は、去年は愛・地球博の影響で減少したが、一昨年並に回復し、外国人観光客も増加しており、堅調。

和歌山地区は、世界遺産登録の効果が持続し、串本沿岸海域のラムサール条約登録とあいまって好調。

大型テーマパーク（USJ）は、5周年記念のショーやパレードがあり、ゴールデンウィーク中の1日当たりの入場者数は前年を若干上回った。